

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 10 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520348

研究課題名(和文) 19世紀末フランス文学におけるゴシック・リヴァイヴァルとヘレニズム

研究課題名(英文) Gothic Revival and Hellenism in the 19th century French literature

研究代表者

加藤 靖恵 (kato, yasue)

名古屋大学・文学研究科・准教授

研究者番号：90313725

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：日仏の図書館や研究所で集中的に調査を行い、またフランス各地の代表的なゴシック教会の資料を収集した。またフランス学士院図書館でマール草稿の調査も開始した。19世紀にゴシック時代の彫刻作品と古代ギリシア美術とを好んで比較する傾向を調査し、国際集会、フランスの論考集、日仏の学術雑誌で発表、またパリ第3大学のプルーストセンターで講演を行った。

研究成果の概要(英文)：We researched in libraries and laboratories in France and Japan, to examine documents on the main Gothic churches in France. We also began to study the manuscripts of Emile Male preserved in the library of the Institut de France. We are interested in the tendency of the criticism of the nineteenth century to compare the sculpture of the Gothic and that of ancient Greece. We published the results of our work at international conferences, collective books published in France and in magazines specialists in France and Japan, before making a synthesis by a lecture at the seminar of Proust center at the University of Paris III.

研究分野：フランス文学

キーワード：フランス文学 ゴシック教会 中世キリスト教美術 プルースト ラスキン エミール・マール

1. 研究開始当初の背景

平成 18～21 年度、科学研究費基盤研究 C の補助を受け、19 世紀イギリスの美術批評家ジョン・ラスキンがフランスの文学と美術批評に及ぼした影響の研究を開始し、現在も継続している。『アミアンの聖書』仏訳の序文に関する美術哲学と美術館学の見地からの論考(Yasué Kato, « La genèse de la préface de *La Bible d'Amiens* - suite : Proust face aux critiques français de Ruskin, Milsand, de la Sizeranne et Bardoux », *Bulletin d'informations proustiennes*, n°36, 2006)の他、成果を常にフランスと日本の査読付専門誌に発表している。その中で特に多くとりあげたマルセル・プルーストとルコント・ド・リールにおいて、フランスで誕生したゴシック美術及び中世への言及が繰り返されることに気づいた。『失われた時を求めて』における中世宗教建築に関する考察については、エミール・マールのすべての著作と照合しつつ再検証をし、新しい仮説をソフィー・デュヴァル他編『プルーストと中世』と題された論文集に発表することになっている。(2010 年 10 月論文受理, 2015 年出版。)

上記の調査の過程でさらに気づかれたのは、マールがイタリアに対するフランス美術の優位を主張しており、それがプルーストの言説にも継承されていること、加えて両者に古代ギリシア文化への憧憬が見られることである。ゴシック礼賛と古代ギリシアの主題はルコント・ド・リールのテキストにも見られることに着目し、同時代の他の文学作品を調べたところ、共通する現象があることに興味をもった。また、マール以外の当時の美術史家のやや国粹主義的言説にも、ルネッサンス以降のフランス美術界のイタリア追従に反発し、自国で生まれたゴシック建築の源泉を古代ギリシアに見る動きがあることを確認した。

所謂「ゴシック・リヴァイヴァル」と世紀末文学の関連については、ジョエル・プリュニョーが 1997 年刊行した博士論文(Joëlle Prunghaud, *Gothique et Décadence*, Champion)以降、比較文化的研究を次々と発表し、個別作家研究レベルでも数多くの研究者が成果を挙げている。ゴシック建築見直しの動きはラスキンを中心にイギリスで生まれ、フランス、ドイツ、ベルギー等、ヨーロッパ全土に広がった。各国の多くの美術史研究者がとりあげている。19 世紀フランス文学におけるヘレニズムに関しては、1950 年代にすでにルネ・カナの大著があり、最終巻では高踏派初期の詩や演劇が論じられている(René Canat, *L'Hellénisme des romantiques, III. l'éveil du Parnasse*, Didier, 1955)。しかしゴシック・リヴァイヴァルとヘレニズムの結びつきに焦点をあてて世紀末文学を論じた研究はこれまで見当たらない。ゴシック・リヴァイヴァルとヘレニズムが、社会・科学・文化の近代化、政教

分離、普仏戦争敗北による国家の威信の失墜という出来事の中で、フランスという国のアイデンティティーを模索する動きと深く結びついていることを実証し、その中で文学作品が発信した意義について、さらに文学という芸術ジャンルのあり方とその潜在性について総合的な検証を目指す。

2. 研究の目的

ゴシック建築と中世美術の再評価、古代ギリシア美術への回帰という矛盾する 2 つの傾向は、フランスの 19 世紀前半の芸術において指摘されるが、世紀末へと向かう高踏派、象徴主義の文学作品や同時期の美術評論においても持続することに着目する。この現象が、科学技術の大幅な近代化、普仏戦争の敗北、社会構造の変化を伴った激動の世紀末のフランスにおける文化的アイデンティティーの揺らぎと連動していることを明らかにし、文学が社会・文化的動向に果たしうる役割について考察する材料とする。

3. 研究の方法

論的分析を進めるにあたって日仏の隣接分野を含めた関係研究者から情報や意見を受ける際に役立て、学際的な研究の位置づけを常に意識して計画を遂行する。フランス、カナダ、アメリカの大学図書館がインターネットで公開している電子テキストを活用して幅広い文献調査をする一方、年 2 回のフランス調査旅行では現地でもしか閲覧できない資料や作家の草稿等を集中的に分析する。

4. 研究成果

平成 24 年度

フランス文学におけるゴシック建築の描写について、プルーストと彼に影響を与えた美術史家のエミール・マールを中心に調査をした。プルーストの著作中、シャルトル大聖堂の彫像作品についてこれまで研究者にとりあげられなかった言及がなされていることを発見し、これについてマール以前から今日に至るまでのシャルトル研究に関する資料調査をフランス国立図書館で行った。尚、この調査の過程でフランス学士院図書館のマール草稿資料を閲覧し、資料の整理、解読、転写を始めた。また言及されている書籍や論文、ヨーロッパ各地の教会に関する二次資料について、閲覧すべき資料のリストアップを始めた。あわせて、プルースト以外のロマンは、高踏派、象徴主義等 19 世紀の作家の作品や美術評論に関する調査も行った。

平成 25 年度

マール草稿資料の調査を本格的に開始、『13 世紀フランス宗教芸術』、『12 世紀フランス宗教芸術』執筆のための資料収集の際にマールが残したメモ群を中心とした。本研究に関係するものを筆写した上で分類をし、刊行されたテキストとの差異に着目し、マール評論の

生成過程をたどった。特に焦点をあてたのは、最後の晩餐と聖母の死の挿話に関連した図像学的検証で、ラン大聖堂の彫刻とステンドグラスについて現地調査した。この大聖堂の彫刻のモチーフの生成を歴史的に解明すべく、中世ギリシアとイタリアにおける基督教美術の動向も合わせて調査した。

平成 26 年度

引き続き、マールの草稿メモの検証をもとに、バイユ、ルーアン、アミアンの大聖堂について、主に植物の彫刻を中心に現地での写真撮影とフランス国立図書館での資料収集を進めた。

平成 27 年度

リジュー大聖堂とタン旧教会の現地調査を行い、植物表象に焦点を当て、古代ギリシアの影響を継承しつつフランス独自の表現様式を探った 12~13 世紀のフランス宗教美術に関する考察を深めた。初年度から続けているマール草稿については、自然表象に関するメモを中心に解説と資料収集を進めた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 9 件)

1. Yasué Kato, « Le chapeau de Miss Sacripant : esquisses littéraires et picturales », *Bulletin Marcel Proust*, 査読有, n° 62, pp. 67-77, 2012

2. Yasué Kato, « L'écriture proustienne et une cathédrale en chantier: commentaire de la communication de Jean-Marc Quaranta », *Proust et l'architecture -- esthétique, politique, histoire* / 京都大学文学研究科, 2013, pp. 73-81

3. 加藤靖恵 「ブルーストとエミール・マール (2) -- シャルトルとラン大聖堂における聖母の魂を運ぶ天使の彫像」, *Stella : études de langue et littérature françaises*, n° 32, 査読有, pp. 189-293, 2013

4. Yasué Kato, « L'adoration de la Vierge dans les bas-reliefs de l'église de Balbec : Proust et Emile Mâle », *Bulletin Marcel Proust*, n° 62, 査読有, pp. 74-82, 2013

5. Yasué Kato, « L'écriture proustienne et une cathédrale en chantier », *Proust et l'architecture : esthétique, politique, histoire*, Université de Kyoto, Faculté des lettres, 査読無, pp. 73-81, 2013

6. 加藤靖恵 「ブルーストとエミール・マール

(3) : 1903 年 4 月のラン大聖堂訪問」, *Stella : études de langue et littérature françaises*, n° 33, 査読有, pp. 93-103, 2014

7. Yasué Kato, « Proust et Emile Mâle : la cathédrale de Laon », *Bulletin Marcel Proust*, 査読有, n° 64, pp. 57-69, 2014.

8. Yasué Kato, « La Vierge dorée d'Amiens et sa haie d'aubépine », *Bulletin Marcel Proust*, 査読有, n° 65, 2016, pp. 51-64

9. Yasué Kato, « Les goûter sur la falaise : montage de l'histoire des jeunes filles pendant les années 1914-1918 », *Bulletin d'informations proustiennes*, 査読有, n° 45, pp. 61-74, 2015

〔学会発表〕(計 6 件)

1. Yasué Kato, « L'illisibilité d'un système descriptif et les manuscrits proustiens : les portraits "impressionnistes" des jeunes filles en fleurs dans le Cahier 34 », colloque international « La Recherche et la forme linguistique du texte », 2012 年 4 月 12 日~14 日, 於 パドヴァ大学

2. Yasué Kato, « Le progrès "technique" du XXI^e siècle et la génétique textuelle : l'état actuel des recherches sur les épisodes d'Elstir », Journées d'études (Le Centre de Recherches Proustiennes de la Sorbonne nouvelle : historique et perspectives), 2012 年 11 月 16 日~17 日, 於 パリ第 3 大学

3. Yasué Kato, « Commentaire sur la communication de Jean-Marc Quaranta », colloque international « Proust et l'architecture. Esthétique, politique, histoire », 2012 年 11 月 24 日~25 日, 於 京都大学文学研究科 (コメンテーターとして参加)

4. 加藤靖恵 ジゼルの作文の挿話 -- 草稿を巡る再考察, 関西ブルースト研究会, 2014 年 10 月 4 日, 京都大学

5. 加藤靖恵 「ブルーストとラスキン: アミアンとリジューの植物の彫刻」, 関西ブルースト研究会, 於 京都大学, 2015 年 12 月 19 日

6. 加藤靖恵 « Proust et les cathédrales : les plantes sculptées à Amiens et à Lisieux », CRP セミナーにて招待講演, ソルボンヌ, 4 月 5 日

〔図書〕(計 4 件)

1. Yasué Kato, 《 “ Faire des vers parnassiens ” -- l' abandon du rêve lycéen et la naissance de l' esthétique de la Recherche », *Proust face à l' héritage du XIX^e siècle : tradition et métamorphose*, 査読有, Presses Sorbonne Nouvelle, pp. 27-38, 2012

2. Yasué Kato, 《 Illisibilité d' un système descriptif dans les manuscrits : les portraits impressionnistes des jeunes filles (Cahier 34) », *Marcel Proust et la forme linguistique de la Recherche*, 査読有, Honoré Champion, pp. 301-320, 2013

3. Yasué Kato, 《 Le progrès “ technique ” du XXI^e siècle et la génétique textuelle : l' état actuel des recherches sur les épisodes d' Elstir », *Proust Pluriel*, Presses Sorbonne Nouvelle, 査読有, pp. 61-75, 2014.

4. Yasué Kato, 《 Elstir et Emile Mâle : le discours sur l' église de Balbec dans le Cahier 34 », *Proust et les Moyen-âges*, 査読有, Hermann, pp. 197-218, 2015

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年月日 :
国内外の別 :

取得状況 (計 0 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
取得年月日 :
国内外の別 :

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加藤靖恵 (Kato Yasue)

名古屋大学・文学研究科・准教授

研究者番号 : 90313725

(2) 研究分担者

()

研究者番号 :

(3) 連携研究者

()

研究者番号 :